

原子力集約全国大会—「原子力規制」の改善を期待して— 大会報告書

1. はじめに

平成 28 年 12 月 1 日（木）に、原子力国民会議とエネルギーと経済・環境を考える会の主催による『原子力集約全国大会—「原子力規制」の改善を期待して—』が、東京大手町のサンケイプラザホールで開催された。定員 500 名の会場に柏崎市議 10 名を含む約 650 名の参加があり、熱気に溢れた大会となった。この会を開催するにあたり、声明文を公開し賛同の署名を集めていたが、署名数が 20 万人に達したことを、宮代表理事より細田博之自由民主党総務会長に本会で報告した。

2. プログラム

13:30	開会の辞	杉山憲一郎・北海道大学名誉教授
13:40	主催者挨拶	有馬朗人原子力国民会議共同代表 柳澤光美・エネルギーと経済・環境を考える会代表
14:15	来賓挨拶	細田博之衆議院議員 自由民主党総務会長 石川昭政衆議院議員 自民党原子力規制に関する P T 事務局長 滝波宏文参議院議員 参議院経済産業委員会理事
15:00	地域からの声	九州 泉館昭雄 原子力国民会議理事、九州支部長 敦賀 石黒順二 福井県原子力平和利用協議会副会長 青森 末永洋一 青森大学名誉教授 新潟 品田宏夫 新潟県刈羽村長
16:10	講演	「“もんじゅ”の使命と今後の展望」 岡本孝司 東京大学教授
16:35	声明書の趣旨説明と署名集約の報告	山口篤憲 原子力国民会議理事
16:40	閉会の辞	末永洋一 青森大学名誉教授



集約大会の様子



約 20 万の署名達成の報告

大会概要

(1) 開会の辞

杉山憲一郎・北海道大学名誉教授・原子力国民会議理事

原子力国民会議はこれまで津波対策ガイドライン作成、原子力安全・保安院への提出、原子力学会秋の大会での、フィルターベントの放散抑制に対する高い効果の報告、周辺住民の被ばくの状況と予測についての国連の原子放射線科学委員会への報告等を実施してきた



本日の集会は、来年9月規制委が5年を迎えるこの時点で、今後の原子力規制のあり方を広く議論し、IAEAのような国際基準を広く活用し、原子力基本法に謳われている「民主、自主、公開」の流れを作ることが狙いである。

(2) 主催者挨拶

1) 有馬朗人原子力国民会議共同代表

・世界の原子力利用の歴史を見ると、1938年のウラン核分裂の発見に始まり、プルトニウムの発見等が続き、1951年米国で世界最初の原子力発電に高速増殖炉が成功して今日に至っている。一方、我が国は1955年に原子力基本法を制定し原子力の利用を平和利用に限り、民主、自主、公開を基本方針として以来、原子力船「むつ」、「もんじゅ」などの研究炉の開発、発電炉の運転を続けてきた。



・原子力エネルギーは、ひとたび炉心に燃料を装荷すると、1年間は運転し続けることができ、発電コストに占める輸入コストの割合が小さいなど、準国産エネルギーといえるものである。資源の乏しい我が国のエネルギー自給率を高めることができ、運転中に温室効果ガスを出さず、発電コストは安く、電気料金を安く安定に保つ効果があり、2011年の震災以来、既に10兆円以上の追加費用となっている火力発電の燃料輸入による大規模な国富の海外流出を止めることができる。原子力は科学技術立国を標榜する我が国にふさわしい技術力で生み出すエネルギーである。エネルギー資源に乏しい我が国は、原子力が稼働すれば、今述べた様々な問題を解決することができる。将来世代を危機に陥らせることのないように、冷静な判断が必要である。事故の

影響を克服し、福島を復興し、事故の反省と教訓を生かして、原子力の安全な利用を確立すれば、我が国は再び世界から賞賛、尊敬されることになるだろう。

- ・原子力を長期に安定的に利用するには核燃料サイクルが必要。ウラン 235 だけを使っていたのでは、決して優位ではない。原子力利用の本命が高速増殖炉であることは明らかである。だからこそ、世界で最初に発電した米国の原子炉が高速増殖実験炉であった。

- ・福島第一原子力発電所の廃炉、周辺地域の復興、避難した周辺住民の方々への誠実な対応は全力で取り組まなければならない。政治は原子力の安全な利用について、国民の理解獲得に全力を尽くして頂きたい。福島第一事故の反省と教訓を反映した原子力発電所は、早期に再稼働すべきである。海外では原子力発電所を止めずに安全強化策を検討し、次の定期検査のための停止時期を利用して工事を行っている。既設の原子炉の使用期間は米国のように 60 年に延長するとともに、建設途中の新規原子力発電所を早期に完成して運転開始すべきである。

- ・もんじゅは旧西側諸国に唯一残る高速増殖炉であり、これを利用すべきである。これまでの大きな投資に見合う価値ある成果を得るべきである。もんじゅを開放して、国際的に利用して、いろいろな知識を一般に与える。それで若者を養成することが必要である。

- ・最後に、本大会の提言にご賛同頂き、ぜひご署名を頂きたい。また原子力国民会議への個人会員へのご登録と、ご所属の組織の賛助会員へのご登録をお願いする。原子力国民会議を大いに活用して頂きたい。

- ・原子力への国民理解が戻らなければ、この国の将来はない。ポピュリズムに陥らず、日本の将来を考え国民を導くのが、気高い政治家である。学者、研究者、有識者、専門家は、恐れず堂々と正論を述べるべきである。マスコミは小さなトラブルを捉えてセンセーショナルな見出しの売れる記事を書くのではなく、国の将来を考えさせる正論を社説とすべきである。

2) 柳澤光美・エネルギーと経済・環境を考える会代表

- ・2011 年の福島第一原子力発電所の事故後、経済産業大臣政務官と同時に福島原子力災害現地対策本部長を兼務することになった。その対応の中で、このような事故は決して起こしてはいけない、そしてこの問題は、電力会社の問題ではなく、国を挙げて、与野党党派を超えて取り組まなければいけないと強く感じた。自然界にも 2.3mSv の放射線量があること、あるいは食べ物は 500Bq を切れば安全だと、いくら説明をしても、どうしても納得してもらえず、結局除染は 1mSv 以下、食べ物は 100Bq 以下となったが、このことが国内だけでなく海外にも風評被害を広めた。特に正しい情報を国民にいかにかきちんと伝えるかということは、大変大切なことである。

- ・翌 2012 年経済産業副大臣になり、現地対策本部長は継続をした。大飯町の住民説明会では、「原子力発電所の再稼働に賛成だが、残念なことは、電気を送っている関西の皆さんに、原子力発電所再稼働を決める私たちがまるで悪者のように言われるの

が最も残念。」とあった。原子力発電所の問題は、止める、止めないではなく、その地域の中で経済も社会も、長い間生活も維持してきていることも十分に考慮しなければならない。

・冷静に、正しいことを正しく理解をした上で、この取り組みを強めていき、国も地方も、政党も与野党も全く関係ない、そういう位置づけで議論すべきである。

(3) 来賓挨拶

来賓挨拶に先立ち、宮健三原子力原子力国民会議代表理事より、4つの提言を謳った声明文への賛同署名数が20万人となったことについて報告があり、細田博之衆議院議員・自由民主党総務会長にお伝えした。

1) 細田博之衆議院議員・自由民主党総務会長

・自民党も様々な困難に逢着しながらも、福島第一原子力発電所の再構築、被害者の救済、賠償や、原子力発電所の安全な再稼働に向けて、一生懸命に頑張っている。各地域、各電力会社の実情も伺い、地方公共団体、政府との間で意見交換を行って、懸命に働きかけを行っている。



・規制委員会の審査のあり方についても、極めて強すぎる規制が現実にはあるのではないかとされているが、6年間経って、まだ一部のものしか稼働が認められていない。なお反対運動もある。

・我々政治家の責任でもあり頑張っていくが、特に専門的知見を持つ人が、恐れずに、ぜひ自信を持って、世界の潮流を反映して、安全についてはもう問題がない状況になっていること、核分裂性のエネルギーは当面やっつけていかなければならないことについて、国民の納得を得て頂くために、これからもご努力頂きたい。

2) 石川昭政・衆議院議員・「自民党原子力規制に関するPT」事務局長

・原子力規制委員会が発足して4年になるが、さまざまな課題、問題点が提案、提起されてきた。自民党においても、やはり3条委員会である規制委員会に対して、ここは訂正すべきだという提言を過去提出している。



・一番の問題は、もんじゅの勧告の件である。IAEAは、「調和して、もっと協力的に、実効性が上がるような規制を作りなさい」ということを言っているが為されていない。

・それ以外にも安全目標、等級別扱い（Graded Approach）、40年のライセンス更新問題など、問題がある。

・一番危惧するのは、2018年の日米原子力協定改定で包括的な再処理の方針が認められるかどうか。

・皆様の20万人の署名を決して無駄にすることのないよう、しっかりと与党の衆議院議員として取り組んでいくことをお約束する。

3) 滝波宏文 参議院議員・参議院経済産業委員会理事

・福島事故が立地自治体地域に対して示したことは、今まで思っていた以上のリスクを抱えながら、都会を中心とする消費地に対し、安定安価な電力を供給してきたということを認識したこと。もっと感謝されてもしかるべきだと思うが、まるで放り出されるような扱いになっている。



・国がしっかりとエネルギー政策の中で原子力を位置付けて進めないと、国及び電力消費地と原子力立地地域との信頼関係、これが崩れてしまう。

・規制委員会は、地元とのコミュニケーションが重要だと配慮が十分にできていない。官民間問わず、組織トップの重要な仕事は、関係者、ステークホルダーとのコミュニケーションであるが、規制委員長は立地とのコミュニケーションを軽視していると言うしかない状況である。高木毅議員、丸川大臣等が足しげく福島に通っているのに対して、委員長は殆ど行っていない。

・規制委員会は強い権限を持っている3条委員会である。大きな権限を持った行政機関は、権限濫用を厳に戒めて、予見可能性の確保等、しっかりと行政手続きを適正に行う、いわゆる **Due Process**、適正手続を遵守することを常に範（のり）としていなければならないが、今の規制委員会の行いを見ていると、これを欠いている状態だと思う。

・横浜市で起きた原子力いじめの件は、決して風化させてはいけない。東電管内に住んでいる人たちの福島に対する感謝がまだまだ足りないし、当事者意識が薄すぎると思う。

(4) 地域からの声

1) 九州地区

泉館昭雄 原子力国民会議理事、九州支部長

・九州支部の具体的な活動として草の根対話集会、大型の講演会などの実施。連携活動として、日本原子力学会等と連携して、大学、高専の学生との対話集会等を実施している。

・市民、学生は、自分が得ている情報と対話集会で得た事実乖離があると言っており、原子

力発電は必要であり、勉強したいと、アンケートに書いている。事実を話せばわかるということを我々は実感している。

・なお、橋本玄海町長より、皆様によろしくとのお言葉を頂いている。



2) 敦賀地区

石黒順二 福井県原子力平和利用協議会副会長

・福島原子力事故から5年半が経過したが、依然として原子力を取り巻く状況は大変厳しい。今は敦賀、若狭の原子力発電所は全て停止した状態で、立地点の雇用、地域経済、あるいは自治体の財政等が大変深刻な影響を受け続け、立地点では一刻も早く再稼働を願う声が日増しに強まってきている状況。

・先般、国が一方的に、もんじゅの廃炉を含めた今後のもんじゅの在り方、利用の方向性を検討するとの発表があり、そのニュースに大変驚いた。もんじゅは、国から、地元の理解・協力への強い要請があり、地元は国のエネルギー政策を信じ、そして今日まで協力をしてきた。そういう中で、国が今回、地元の意向を無視し、事前の相談や説明が一切なく、このような発表を行ったことに対して、地元では大変な憤りと、国のエネルギー政策への大変な不信感が広まっている状況である。国のこういうやり方がまかり通るようであれば、国の原子力施設等を受け入れる地域はなくなるのではないかと思う。

・また、規制委員会の委員長、委員は、全く現地視察に来ていないにも関わらず大



変厳しい、もんじゅが廃炉になるかならないかのコメント、発表を突き付けていると、全く理解に苦しむ。日本の規制も、できるだけ事業者と十分にコミュニケーションをつないで、適切な判断、規制に切り替えて頂きたいと願うところである。

・日本の原子力業界では、原子力技術者、研究者の人材育成に急を要している状況である。現場の技術者、研究者のやる気や士気の低下を招かないように、ぜひ育てて頂きたい。

・日本のエネルギー自給率は6%であり、エネルギー資源のない日本にとって、必要欠くべからざるものである。国はエネルギー資源のない日本が原子力をなぜ受容しなければならないのか、徹底的に世の民衆への理解活動を行い、立地地域の子どもや住民が差別に遭ったり、いじめに遭ったりしないように、強く願います。

3) 青森地区

末永洋一 青森大学名誉教授、原子力産業と地域・産業振興を考える会会長

・再稼働の遅れ、工事の中断等々、定量的にはなかなか捉えづらいつころがあるが、さまざまな形において地方経済が疲弊している。

・青森県下北地方はこれまで国策を持ってくることによって、地域の発展の起爆剤にしようとした試みはことごとく挫折して



きた。そういう中でたどり着いたのが原子力産業だった。原子力産業は決して裏切らない。原子力産業を基軸として、それと共生を図りながら、地域経済、地域社会を発展させる。そういう目的を持って、下北地域の4市町村はそれぞれ誘致したが、財政的にも経済的にも大変厳しい状況である。原子力こそ、日本のエネルギーの基幹であり、それがなければ日本の産業経済、国民生活も成り立たない、そういうことを誇りとして持ってきたが、それが今、失われつつある。

越善靖夫（東通村長）：

・原子力発電は、国、事業者、そして立地地域の信頼関係がなければ成り立たないものである。これまで長い年月をかけ構築してきた。今、村民に原子力に対する不信感が生じることを最も



懸念している。十分、これらを認識して頂き、早期の再稼働、そして早期の工事の再開を心から願う。

各市町村長からのメッセージの概要（代読）は以下のとおり。

宮下宗一郎むつ市長：

青森県下北半島地域は、国策であるエネルギー政策に地域として誇りを持って長年にわたりこれまで協力してきた。原子力関連施設の長期稼働停止等による地域経済の停滞、関係者からは地域存亡の危機との声を聞く。他の立地地域も同様と推察する。原子力規制委員会による新規性基準適合性の審査は徹底して行うものと理解するが、一方で先が見通せない現在の審査のあり方は、立地地域にとって将来展望への不満を抱かざるを得ない。原子力規制委員会におかれては、立地地域がおかれた状況をよくご理解頂き、速やかに適合性審査を進めて頂くよう強く要請する。

金澤満春大間町長：

原子力関連施設立地地域は、賛否を二分する議論を重ねながら、国のエネルギー政策に理解を示し、国の発展と自らの地域の発展を求め歩みを進めてきた。今やらなければならないことは、先人の思いを深く受け止め、核燃料サイクル事業を堅持し、原子力政策を加速させ、未来へつなぐことである。原子力の平和利用は安定したエネルギーの確保、地球温暖化の改善、国際平和に大きく貢献できるものと確信する。

戸田衛六ヶ所村長：

なぜ、国のエネルギー基本計画に盛り込まれているもんじゅについて、立地地域の理解を得ない廃炉論が急浮上するのか、もんじゅのみならず、原子力施設を立地するに当たり、当時の立地自治体の苦労というものを今一度、国としても心に受け止めて頂きたい。エネルギー資源の乏しい我が国において、原子力発電をベースロード電源の一翼にするならば、原子力への不信や不安を払拭するために、国民理解を進めるべきと考える。

4) 新潟地区

品田宏夫新潟県刈羽村長

・地元経済の状況について、現在は、新基準の対応の仕事が沢山あるが、通常運転中の工事とは、工事の質が違う。今の工事に携わっている皆さんが地元で家を建てることはないし、購買の動向も違う。子どもも一緒には来ない。つまり、いつもの我々の状況ではない。地元の経済のために早く動かしたいのだろうという論調ばかりであるが、発電所が発電をしたら首都圏の皆さんばかりが良くなるのではない。日本の国であると刈羽村の住人は考えている。

・原子力に対する失望感は無い。失望感というよりも、怒りの感情の方が大きい。

その怒りの感情というのは、今の社会全体に向くもの、そして制度である。

・立地点の我々は、国のエネルギー政策は国家政策であると思う。エネルギー、食糧、防衛、これらを支える教育等、皆が分かっているからいけないことについて、村民は大変よく勉強している。国家国民のことを考えて、小さな刈羽村で、村民たちが頑張っている。そここのところを、しっかりと理解して頂きたい。

・規制委員会には、本来の業務をスピーディにやって下さいということだけ申し上げたい。忙しい、仕事が大変なのだから、相当時間がかかるのだというようなことでは困る。この間にも諸外国へ1日100億円という国富がどんどん流出している現実がある。規制委員会の権限の裏側にある義務、責任をしっかりと果して欲しい。

・原子力発電所これからどうなるのだという話の中に、あたかも立地点が早く動かせと言っているという声大きい。地元の経済と結びつけて、安全を蔑ろにしているのは立地点の人間だという、まさしくバカな理屈が、世の中にまかり通っている。厳しくやってほしいのは地元である。私たちが一番安全にはピリピリしている。

・原子力発電に賛成とか反対とか、そんな議論になるはずはない、冷静に考えれば。エネルギーがいるのかいないのか、必要なエネルギーをどうやって作り出すのか、これが議論の要諦である。

・先日鹿児島で、特別点検のために早く止めてくれと、知事が言ったが、九州電力は、止める義理はないと言った。これは立派だったと思う。

5) その他の地域

佐藤政雄大洗町副町長：

・このたび、原子力の正常化を早期に実現するために、原子力集約全国大会を開催し、4つの提言が声明書として採択され、政府に働きかけることを高く評価するとともに、原子力関連施設の立地町として、この全国大会に結集された多くの団体、住民の方々と一致団結し、政府に働きかける所存である。ついては、本大会の成功を祈念し、4つの提言を支持することをここに表明する。

栗野明雄高浜町議会議員（野瀬高浜町長メッセージ代読）：

・東京電力福島第一原子力発電所事故によって、原子力政策に対する国民の信頼が著しく大きく損なわれてしまった。こうした状況の中、全国の原子力発電所立地自治体は、感情的な批判にさらされ、風評被害を受け、疲弊していつている。原子力政策を巡る論議の混乱や混沌を解決するためには、国が前面に立ち、実践していく責任と覚悟が必要である。今回の4つの提言に賛同するとともに、本大会の成功を祈念する。

丸山敏彦柏崎市議会議員：

・最近の規制庁は反対するための役所ではないかと思うほど、そのスピードが遅い。地元の皆さんの期待に少しも応えてはいないように感じる。20年前に「全国原子力発電所立地市町村会議、議長会」を設立したが、この組織についても、しっかりと、温

かく見守って下さる様お願いしたい。

(5) 講演「“もんじゅ”の使命と今後の展望」

岡本孝司東大教授より、「“もんじゅ”の使命と今後の展望」と題する講演が行われた。



・福島第一原子力発電所の事故については、私も大きな衝撃を受けたが、これを受けて安全をどう考えていくか、安全を保ったまま、さらにはエネルギーを、将来のエネルギーを含めて

どう考えていくか、そういうことを大学の立場から、学生たちといろいろと議論を継続している。

・韓国と中国、特に中国は東シナ海沿岸に、南シナ海にもあるが、大量の原子力発電所がある。我々は日本のことだけでなく世界の中での原子力を考えていくことが重要である。

・我々はエネルギー源のない国に住んでおり、その中でももんじゅを開発している理由は、「プルトニウム鉱山」、つまりプルトニウムを新しい燃料として使っていくことができる、国産エネルギー資源のひとつの大きな柱になる、これに加えて高レベル廃棄物の減量に大きく活用できるということである。もんじゅをプルトニウム鉱山として開発していくというのは、今だけではなく将来の、30年後の日本のためにやるということが大きな目的になっている。30年後と言ったが、パリ合意でCO₂を減らして温度上昇を2℃以内に抑えろとし、それを実現するためには世界のエネルギーをどう考えていくか、さまざまな機関でシミュレーションを行っているが、FBR、軽水炉も含めて原子力が世界の中で大きな割合を占めていくことが、CO₂問題に取り組む人たちの間でひとつの大きなシナリオとして考えられてきている。

・もしもんじゅを今のまま活用しないでいくと、ロシア、中国、インドで開発されたものを日本で活用していくこともあってもおかしくはない状況である。フランスはASTRID（という実証炉）を作ろうとしているが、これは廃棄物低減が中心であり、必ずしももんじゅのロードマップとは相いれないものが出来上がっていくことになる。

・なぜもんじゅを開発するか、大きな柱は自主開発技術である。また、地震大国の日本でもんじゅをしっかりと作り上げていくことは、他の地震国においても活用でき世界に貢献できる。

・もんじゅは昨年、勧告を受けたが、規制委員会を含む国の組織というのは、組織管理体制が自分に対して非常に甘いというのは、どこでも同じである。もんじゅの

勧告と同じアプローチを取るならば、仮に規制庁にも同じことをすると、規制庁は別な組織に組み替えよと自分で言わなければならないような、そのような話に持って行ってしまうほど、変な勧告であった。

・もんじゅ自体の安全性は、ある意味軽水炉よりも高い。勝手に止まる（冷える）ので、福島第一のように津波が来て電源がなくなっても、事故にはならない。また、水ではなくナトリウムを使っているため、材料が腐食しない。水だと10年も使っていれば表面などある程度腐食することを考えないといけないが、もんじゅでは30年経っても新品同様である。こうしたことを踏まえて、JAEAではピアレビュー形式の、私も入っていたが内部の専門家による委員会、それから国内の専門家、国際専門家によるレビューも受けており、福島第一事故の反省を踏まえても十分、安全性は世界標準に合っている。

・もんじゅは地震に比較的強い国産の原子炉であり、国際協力を含めた貢献をしていくこと、特に安全性をスケールアップの中で確認していくことが、非常に重要なもんじゅの役割。

・将来のエネルギー確保のために、もんじゅを作り、さらに次の実証炉を作り、ロシア、中国、インドとしっかりと渡り合っていくことが必要。また、今の規制委員会にはもんじゅの規制をする能力がないので、規制委員会をきちっと再編して、もんじゅを規制できる形の委員会を作り上げた上で、再稼働にもっていくことも考えていくべきではないかと思っている。

(6) 声明書の趣旨説明と署名集約の報告

山口篤憲 日本保全学会事務局長、原子力国民会議理事

エネルギーセキュリティをどうやって確保していくか、いろんな問題を抱えているが、これらの問題を解決できる一本の軸というのは、やはり原子力ではなかるうかという思いから、この声明書（4つの提言）を作成するに至った。

提言1：原子力発電所の再稼働の促進を

提言2：将来のエネルギー確保にもんじゅの再生を

提言3：信頼される規制行政のために原子炉等規制法の改正を

提言4：原子力規制行政の刷新を

この提言に対して、予想しなかった20万人もの署名を頂いた。これまで原子力発電の推進という声を出すことすら憚られていた中、多くの方々、サイレントマジョリティと呼ばせて頂くが、そうした方々の声を発掘する画期的な機会になったのではないかと考えている。



署名の集め方は、人づてにお願いしようということで、世話人と呼ぶ人たちにひとりひとりから声をかけて頂いた。当初は 5000 人という目標を設定していたが、あっという間に輪が広がって、20 万人というふうに広がった。

全国津々浦々、原子力の必要性を感じておられる団体はたくさんあると思うが、なかなかそれがひとつにまとまってこなかったというのが、今までの現状ではなかろうか。今まで点でしかなく動きづらかったこうした動きを、大きな面としてつないでいくうねりができたのではなかろうかと考えている。

私たちは声を大にして、政府、国会議員及び国民の皆様へ提言の実現を呼びかけ、原子力の早期正常化の働きかけを続けて参りたい。そのために、官邸、そして今日も細田総務会長にお渡ししたが、自由民主党へ声明書と署名結果をお届けする。署名にご賛同頂いた多くの方々に厚く心より御礼申し上げます。

(7) 閉会の辞

末永洋一 青森大学名誉教授、原子力産業と地域・産業振興を考える会会長

Oxford 辞典で、今年という言葉に「Post-Truth」を選んだ。大変な危機だということ。真理を追究するよりは、真理以上に感情とか一時的なものが影響力を持つ、そういうものを選んでしまった、ポピュリズムの世界である。こういうものに対して、政治家の方々にしっかりとした政策として展開して頂きたいということ、もうひとつは、原子力国民会議や、エネルギーと経済・環境を考える会のような団体の活動が全国的に広がっていくこと。実際、広がりつつあると思う。20 万人の署名がそれを物語っていると思う。そのような形で今後ぜひ運動を展開していきたいと考える。

実施日時：2016年12月1日(木) 13:30-16:00

会場：大手町サンケイプラザホール

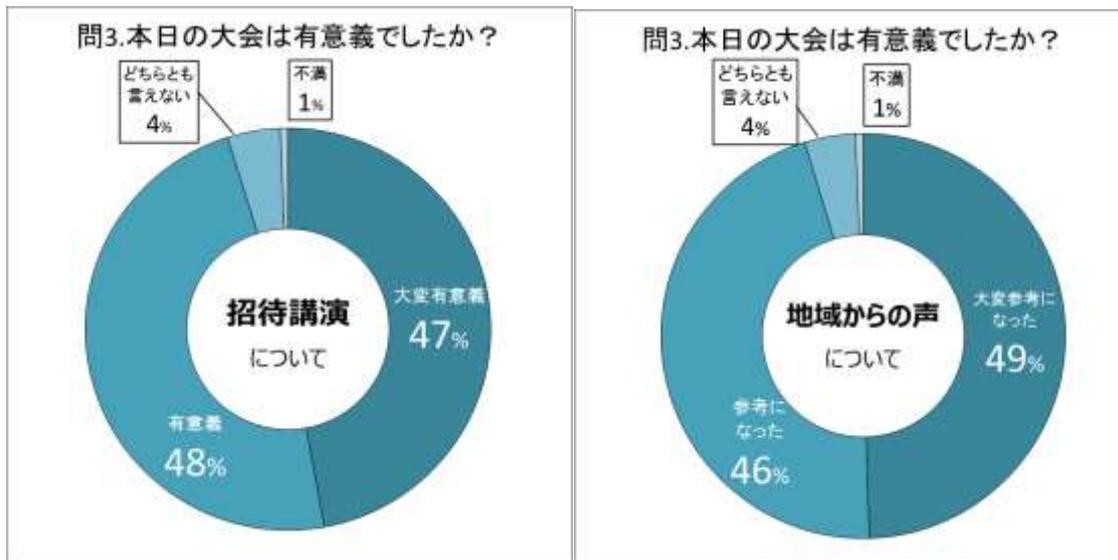
会場参加者：650名(推定)

アンケート回収数：341枚/ 52% (推定)

質問内容		○	×	未記入 その他
問 1	原子力発電所の再稼働の適合性審査遅々として進んでいません。この状況についてお聞きします。			
#1	原子力規制委員会は審査の遅れの原因とっています。しかし、事業者は死者を出すほど全力を挙げて規制対応をしています。規制委員長は、当初、審査は半年で済むと言明していました。この事実をどう思われますか。			
	①審査の遅れは事業者に責任がある	4%	65%	30%
	②数万ページに及ぶ申請書類を作成させるなど、審査の仕方が非効率的である	93%	1%	6%
	③事業者と規制当局のコミュニケーション不足が原因	72%	8%	20%
#2	これまで、26基が申請され8基の審査が終了しています。一方、規制委員会は一向に全体スケジュールを明確にしようとしていません。何が原因だと推測しますか。			
	①安全が最優先であり遅れるのはやむを得ず、全体計画は示せない	12%	59%	29%
	②規制委員会は運転再開に関して原発慎重派に配慮しすぎているため	69%	13%	18%
	③規制委員会は原子力の活用に中立的立場を維持しようとしているため	37%	39%	23%
#3	原子力規制に係る法律・規則等（原子力規制委員会設置法、原子炉等規制法、など）は福島事故後急ごしらえで法制化されたので、不備があるとされています。その不備のため、適合性審査が遅れています。この点についてあなたはどのように思われますか。			
	①法律は数年の実績（例えば3年ごと）を反映して適宜に見直されるべきである	87%	3%	11%
	②規制当局は事業者と協調しながら、しかし事業者の不備を見抜く心構えを持つべきであり、そうなっている	14%	52%	34%
	③適合性審査に合格した原子炉を安全とは言わないという規制委員長の姿勢は正しい	5%	65%	29%
	④規制委員長は原子力の活用に向け真剣に取り組んでいない	65%	10%	25%

問 2	「もんじゅ」は、規制委員会がその運営に関し勧告を出して以来、文部科学省での審議、高速炉開発会議・閣僚会議での審議を経て、廃炉に関する結論が出されようとしています。あなたはどのように思われますか。	○	×	未記入 その他
	①日本で高速炉開発を進めるためには「もんじゅ」を再稼働することが不可欠である	66%	13%	20%
	②「もんじゅ」を廃炉としこれまでの実績を背景に実証炉開発段階へと進めたほうが良い	24%	47%	28%
	③「もんじゅ」を再稼働する場合、現在の原子力機構に任せるのが最も適切である	26%	43%	30%
	④「もんじゅ」を再稼働する場合、原子力機構で経験を得た技術者を中心に、民間と組み合わせた新しい組織で運営すべきである	57%	15%	28%
	⑤日本の核燃料サイクルを完成させるためにも「もんじゅ」の活用が必要である	75%	7%	18%
	⑥「もんじゅ」勧告で指摘された保安規定違反は偏った揚げ足取りの規制措置であり、勧告は正当性がない	59%	13%	28%

問3. 本日の大会は有意義だったと考えますか。



招待講演・理由

(評価内容 1…大変有意義だった 2…有意義だった 3…どちらとも言えない 4…不満)

評価	理由
1	政治家の人たちも原子力の問題をよく理解出来ていることに、熱心に取り組んでいることが理解できた
1	滝波先生のお話はすばらしかった。立地地域の声を代弁してくれた！
1	決起集会として有意義→これからどうつながかが課題でしょうか？
1	有馬共同代表、柳沢代表の講演を聞いて良かった。
1	岡本先生のFBRの話が聞いて良かった
1	将来のエネルギーを確保するためにも高速増殖炉は必要だ 世界の潮流だという事がよく分かった
1	現状の原子力体制に対する不満の大きさを示せたこと
1	原子力の重要性に対する力強いメッセージが述べられた 特に首長のメッセージは原子力政策に対する「怒り」「期待」が込められていた
1	事業者規制庁の在り方を変えることはできないが、自民党として改善を働きかけて頂いていることがよくわかり、心強く感じた
1	柳澤氏の実体験に基づいた主張に感銘 石川氏 極めて具体的 滝波氏 田中委員長の現場軽視指摘迫力あり
1	普段から思っていることと同じで、心強い感があった。
1	消費地に居住する者の一人として電力生産地域への感謝の不足を痛感させられた。
1	柳澤代表の原子力問題の正確なとらえ方はまさに正論だった

1	原子力立地地域への感謝の気持ちが足りないとの意見に非常に共感したため
2	柳澤光美さんの話をもう少し聞きたかった。
2	原子力についてやっと正論を言える集会になった
2	政治家は言うだけでなく、実践してもらいたい。言っていることはいつも同じ。
2	「原子力集約大会」にふさわしい集まり 一つのエポック
2	与党議員はどこか他人ごとに聞こえる(滝波議員以外)
2	規制委員会に対して自民党が取り組んでいることが直接聞けた
2	政治的な観点からの NRA に対する問題意識と指摘を共有できた。
4	東電が語らないのはどうなのか？

問3. 本日の大会は有意義だったと考えますか。

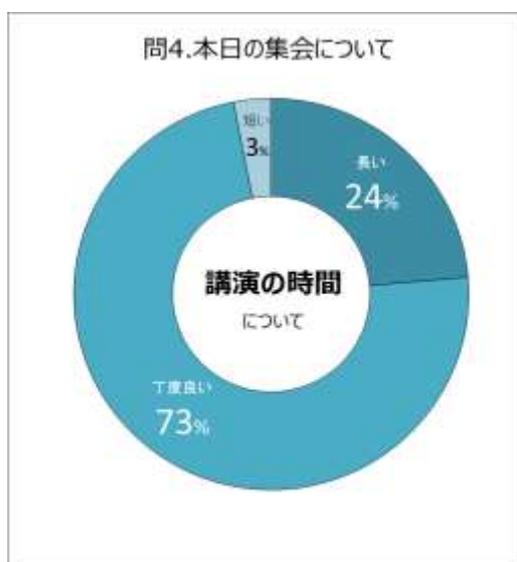
招待講演・理由

(評価内容 1…大変有意義だった 2…有意義だった 3…どちらとも言えない 4…不満)

評価	理由
1	九州、つるが、青森共に生の声が発信され、大いに志気が上がった
1	地元からのメッセージ。末永先生、品田村長の発言に共感した。
1	推進・反対のコミュニケーションをどう形作るかが大切
1	品田村長の話に変感銘を受けた
1	刈羽村品田村長の話が分かりやすく参考にもなった
1	品田村長の話、立地の方々の意思がよくわかりました
1	規制委に振り回される地域の怒りが明らかにされた。 特に品田村長の講話は秀逸。
1	他の立地自治体と同じ思いと確認できた
1	刈羽村長に同意
1	原子力事業を進めていくには、立地地域の方と密なコミュニケーションが大事だと改めて認識することができたため
2	品田村長のみ
2	品田村長の原子力学会誌への寄稿を読み、参加したため話が聞けて良かった
2	滝波議員の話も含める
2	品田村長「エネルギー確保に対しての議論」をもっとすべきである
2	品田村長の話とても分かりやすく、上手で、よかった 30-40分話してもらってもよい もっと話を聞きたい
2	品田村長は相変わらず上手 good
2	品田宏文刈羽村長の話に変感銘を受けた。ただし数が多い。

2	長い
2	安全審査が長期化することにより、立地地域が困っていることがよく分かった
2	末永さんの挨拶は、迫力に圧倒されました。
3	規制委員長が現地訪問することはあまり重要でない。もっと実務を正しくやるべき。
3	論点のはっきりしない、また聞き取りにくい発言者が多い(九州、敦賀、青森)
4	福島からの声は消すのか？

問4. 本日の集会について



- (1) 講演の時間は 1. 長い 2. 丁度良い 3. 短い
 (2) 開催時期、曜日、時間についてご意見があればご記入ください。

評価	要望
1	主催者の講演はもう少し短くてよい
1	16時終了は中途半端 17時がよい
1	平日開催でなく休日開催がいいと思う
1	定期的開催に期待いたします。
1	地方が長い
1	地方議会、国会と重ならない時期に
1	予定通り進行してほしかった。夕方、土日でもよかったのではないかと？
1	時間は守ってほしい。のびすぎ。
1	発言者は、持ち時間を厳守し、スピーチすべき
1	適切であった

1	超長い
2	講演が盛りだくさんであわただしく感じた。休憩時間がほとんどないため、もう少し講演を少なくした方が良かったと思う。講演時間は丁度良いと思います。
2	時間配分、タイムキーピングにもう少し工夫を
2	適当であると思います。
2	夕方の方がよいか
2	予定時間をオーバーしすぎではないでしょうか。熱き想いは理解しますが…。
2	金曜日の午後だとさらに参加しやすいかもしれません
2	講演会だとしてみれば長い
2	各々が時間を守るべき スケジュールが押してしまう。全体の時間を守るべき！
2	土、日、祝日を希望する
2	各自の持ち時間を守り(守らせる)、円滑に進めるべき。
2	プログラムの時間から大きくずれているので進め方をしっかりしてほしい。
2	時間が大幅に延長されていて、時間設定をしっかりとさせていただきたい。容認するなら早めに、時間変更を連絡すべき。待つ先生にも失礼である。
2	時期、曜日は特にないが、時間については少し遅くから始めてほしい
2	リタイアした人にとっては週日のほうがいいが、やっぱり土日に開催し、一般の現役の人に入りやすいようにした方がいいと思う。
2	月曜日または金曜日
2	平日午後でいいと思う
2	会場規模、参加人数に応じた休憩時間を設定していただきたい…5分間では短い
	講演本数は代表側に絞るべき

問5. その他ご意見（自由にお書きください）

賛同	運営	引き続き積極的な活動を期待しています。
賛同	政策	<ul style="list-style-type: none"> ・原子力を含めたエネルギー問題については、皆で考えていかねばならないことが再認識できた。また、賛成、反対を超えて解決しなければならないと再認識できた ・消費地と立地地域の意識の乖離が大きくなってしまっていて歴史が長く、コミュニケーションの強化により解消しなければならないと思った。 ・立地においては、生活地経済とのつながりが強く、立地地域の市場を考慮した原子力政策を考えねばならないと思った。 ・個人としては、マスコミのみでなく、多様な情報を集め、考えなければならないと再認識した。
賛同	政策	<p>ニュースや記事だけではわからないことがこの大会に参加して理解できました。</p> <p>このような内容をもっと多くの国民に聞いてもらえるようにできればと思いました。</p> <p>非常に有意義な時間を過ごせました。</p>
賛同	内容	<p>講演者の熱意を感じた</p> <p>今後、原子力国民会議の活動を注視していきたい。</p>
賛同	内容	四つの提言を政府に要望し、提言が必ず早期に実現できるよう期待します。
賛同	内容	品田村長の話は分かりやすい。ポイントをつかんでいる。
主張	規制	<p>20万人の署名は大変な(判別不能)エネルギー、今後の展開を願います。</p> <p>田中規制委員長の再任は絶対に阻止すべし</p> <p>やはり委員長は原子力は国家エネルギーは必要(判別不能)</p> <p>べからずの人材を願っている</p>
主張	規制 マス コミ	<p>1.規制委員会の委員長の脱法行為、サボ行為を追求すべきでないか</p> <p>2.現状は、反対派との宣伝合戦に負けている。安全問題、放射線問題に正しい知識の普及に力を入れるべき。政治家、マスコミに対し、理解活動をすべき。</p>
主張	政策	<p>日本は資源のない国であり安心して更に電気料金を低料金で使えるためには原発の再稼働は必要です。また、核燃料サイクルの確立ともんじゅの活用も絶対必要であります。もう少し安全審査基準のハードルを下げ、国が全面的に立って国民に原発の安全性、必要性を誤解のないように発信するべきである。うるさい規制委員会には、原発以外のエネルギーがあるのか、明確に示してもらいたいです。</p>
主張	政策	<p>日本にとって原子力は欠くべからざるエネルギーであり、先人の並々ならぬ尽力をベースに原子力の平和利用が進められてきました。今日の状況は歴史</p>

		<p>の中での一つの通過点ととらえ、原点に立って、総力を挙げて諸課題を克服していきましょう！</p> <p>本日の大会は、意義ある場であったと思います。</p>
主張	政策	エネルギー安全保障としての原子力は国策。国は表に出るべき。
主張	世論 マス コミ	<p>マスコミが原子力に対する理解が薄く、正しい内容を発信していない。 (反対意見ばかりとりあげていたずらに不安をあおる)</p> <p>また、今だけしか考えない長期的なエネルギー政策について考えもしないことが問題。</p> <p>このような情報発信を広く国民に対しやっていくことが大切 (マスコミもうまく使っていけるとよい、活用しなければならない)</p>
批判	運営 時間	<p>段取りが悪すぎる</p> <p>アンケートの質問事項の意味が分からない</p>
批判	運営 時間 会場	<p>次回はもっと広い会場で行ってほしい。</p> <p>スケジュール管理が甘い</p> <p>進行をもっとしっかりしてほしい(平日なので時間に制限がある)</p>
批判	運営 時間	<p>内容も時間もよかったが、予定の時間を30分以上もオーバーするのは論外。 プログラムに入っていない内容がたくさんあったが、それでも時間内に終わる予定だったのか。</p> <p>もう少し広い会場の方がよい。机なしで3時間は辛い。</p>
批判	運営 時間 内容	<p>・身分が高い方こそ時間を守るべき</p> <p>進行側も抑制できておらず、話をしている人も省略しようという気持ちが見えなかった(こういう意見も誰も伝えられないのではないか)</p> <p>・アンケート表紙の質問の意図が理解できなかった。 (「○×」で答える種類のものではないと感じた。)</p>
批判	会場	会場が狭すぎました。
批判	内容	「原子力規制」の改善に関する話題が少なかったように思います
要求	運営	本日の発表資料をWEB上に公開して欲しい。
要求	運営	有馬先生他大変有意な話ですが、使用されたOHP等をHPで公開頂きたい
要求	運営	反対の立場の人も参加いただけると良い
要求	運営 時間	時間配分を適切にお願いします。
要求	運営 内容	先生の参考に使用したパワーポイント原稿を、サイト内にUPして頂けるとありがたいです。(後日でOK)特に岡本先生のPPT
要求	運営 内容 時間	<p>原子力を規制する側の(感情的でない)意見も聞きたい</p> <p>品田村長の話が聞いていて気持ちよかった</p> <p>公演の人数が多く、時間が足りないように思った</p>

◆アンケート回答者について

